

## (4) 団体ヒアリング調査結果

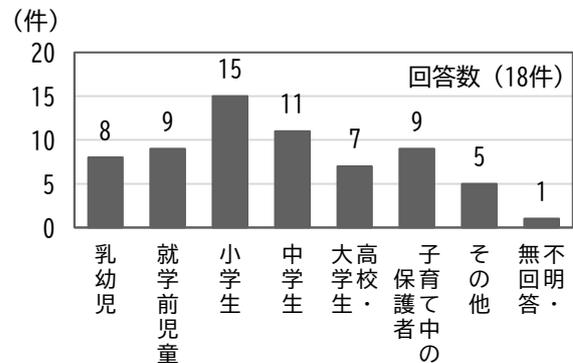
### ① 団体概要

○対象団体は、以下のとおりです。活動団体の対象者は、「小学生」が15件と最も多くなっています。

#### ■対象団体

対象団体	民生委員・児童委員 社会福祉協議会 子育て支援サークル、子育てサークル 教育支援センター 放課後児童クラブ 等
------	--

#### ■活動団体の対象者



### ② 町のこども、子育てを取り巻く環境や子育て支援サービスについて

○こども・若者や子育て家庭を取り巻く課題で特に気になることは、「ヤングケアラーへの支援について」が6件と最も多く、次いで「ひきこもり\*、ニートについて」「こどもの貧困対策について」がそれぞれ5件となっています。

#### ■こども・若者や子育て家庭を取り巻く課題で特に気になること ※上位3位



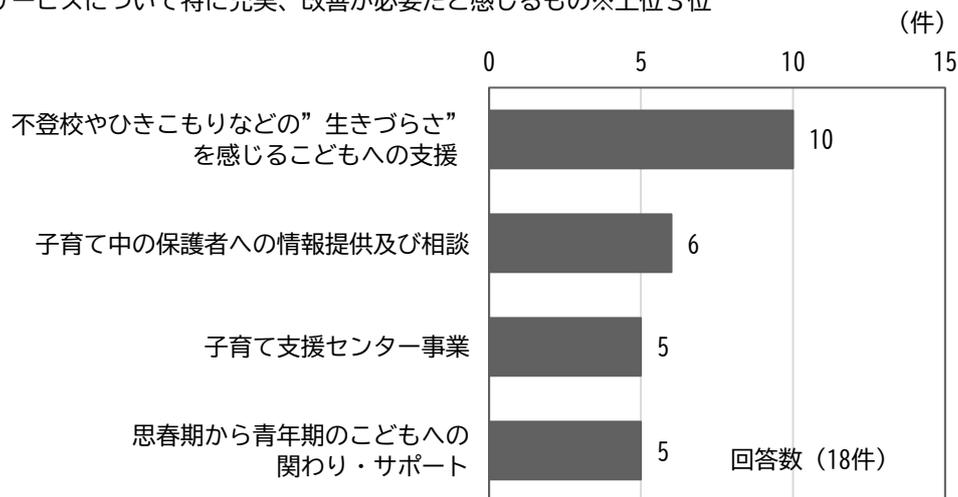
#### ■具体的な内容

選択した項目	具体的な内容 (抜粋)
ヤングケアラーへの支援について	<ul style="list-style-type: none"> <li>行政アンケートに「ヤングケアラー*が身近にいるため対応強化してほしい」と要望があった。</li> <li>母子ともに障害があり、家族の世話をこどもが中心にしているが、母親からの叱責で体調を崩している。</li> </ul>
ひきこもり、ニートについて	<ul style="list-style-type: none"> <li>相談支援員からひきこもり*や不登校児童の利用依頼を受けるが、来所させる試みが保護者以外からも必要。</li> <li>保護者・支援員・学校・本人・事業所で連携するだけでなく、行政側もかかわれると良い。</li> <li>「ひきこもり*」状態にある人、困っている家族は潜在的に少ないと感じているが、実態把握と支援に協力して取り組む必要がある。</li> <li>親が高齢となることで「親亡き後」が問題になっている。</li> <li>若い頃からひきこもるこどもとその親の課題などを早期発見、対応できれば解消していくと考える。</li> </ul>

選択した項目	具体的な内容（抜粋）
こどもの貧困対策について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 上市町に転入した児童生徒のいる家庭のうち、教育・福祉面での補助を含めた支援の厚さを転入理由の一つにされるご家庭が増えていると感じる。それに伴い、学校集金の遅延や経費がかかるスキー教室等の学校行事への参加を控えるご家庭も増えている。</li> <li>・ こども食堂で弁当の配布等を行っているが、潜在的ニーズがまだまだあると感じる。</li> <li>・ こどもとその家族に対しての継続的な支援が必要。</li> </ul>
学校教育について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ L I N E等のトラブル回避ができず悩んでいる中学生がいる。</li> <li>・ 地域健全育成事業ではなく、もっと開設日が多く、活動内容や専門性の充実した放課後児童健全育成事業が必要。</li> <li>・ ことばの教室*を利用していただいていた児童が小学校に入学した後に不応を起し、相談に来られるケースが毎年一定数ある。入学後も継続して相談、支援できる場があるとよい。</li> <li>・ 保護者の中では、夜間活動中心のクラブチームより、クラスの仲間と楽しく体を動かせる活動を望んでいる。</li> </ul>

○子育て支援サービスについて特に充実、改善が必要だと感じるものは、「不登校やひきこもり\*などの“生きづらさ”を感じるこどもへの支援」が10件と最も多く、次いで「子育て中の保護者への情報提供及び相談」が6件となっています。

■子育て支援サービスについて特に充実、改善が必要だと感じるもの※上位3位



■具体的な内容

選択した項目	具体的な内容（抜粋）
不登校やひきこもり*など“生きづらさ”を感じるこどもへの支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ アウトリーチ、ファミリーサポートが必要。特に送迎サポートによってかなりの不登校児童生徒は救われると考える。学校や施設の送迎をすることで生活習慣を正し、社会とのつながりを取り戻すことができるのではないかと考える。</li> <li>・ 本町の不登校の要因の一つとして、自分自身の生活を優先する保護者・家族（大人）が増えていることが挙げられるように感じる。結果、育児放棄やヤングケアラー*につながり、児童生徒が家庭・学校生活において安心できず、不登校やひきこもり*につながっている。原因となる問題についての解決を図ることができる機関の設置や、現状の組織での連携システムづくりが不可欠だと考える。</li> <li>・ 学校の先生へのアドバイス等、専門機関と連携をとってほしい。</li> <li>・ 定期的なケース会議を経て、訪問支援の継続的な取組が必要。</li> <li>・ 学校ではない居場所の充実が必要。</li> <li>・ 個別にかかわる人員の確保、集まりやすい・相談しやすい場の開設が必要。</li> </ul>

選択した項目	具体的な内容（抜粋）
子育て中の保護者への情報提供及び相談	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子育てに関する情報や相談できる機関の周知徹底が必要。</li> <li>・相談会の実施や相談窓口の情報提供があると良い。</li> <li>・自分から発信することのできない方が気軽に相談できる場や地域の見守り方法があると良い。</li> </ul>
子育て支援センター事業*	<ul style="list-style-type: none"> <li>・0～20歳までの切れ目のない支援を、福祉課～教育委員会～福祉課へとつなぐ支援センターの設立を希望。</li> <li>・障害や特性をもった子どもへの理解やかかわり方、「合理的配慮」の情報を共有できる場所、研修、アプリなどの提供があると良い。</li> <li>・「こどもの城」の乳幼児教室は、内容が充実しているが参加人数が少ない。乳幼児教室に関しては、ほかの市町村の参加も可能することで多くの人に来てもらえると良い。</li> </ul>
思春期から青年期の子どもへのかかわり・サポート	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修などを通して、学ぶ場があると良い。</li> <li>・学校、家庭と連携し、本人の意思を確認しながら取り組む訪問支援があると良い。</li> </ul>